

作曲力訓練法

hitara0314

作曲力訓練法

- A、映画などをみて複数の気持ち、または一つの強い気持ちを見つける。
- B、作詞を強くするか、曲を強くするかを決める。
- C、曲で伝える気持ちに関連性、または統一性があるか考える。
- D、気持ちを音で表すために、気持ちを詞にする。
- E、詞のどの部分で強く伝えたいか決める。
- F、詞にした気持ちが伝わる歌い方を探す
- G、歌い方を最も表現出来る楽器で作曲する。
(声音の強弱、音程を表すことの出来る楽器)
- H、作曲した複数、単一の楽器を組み合わせる。
- I、歌うと決めていた歌詞に沿った曲になるよう調整する。
- J、小説やテレビ、映画などをみて自分に合った言葉の表現を探る。
- K、第三者から見た表現を養うために、考えた歌詞に対して他人の目線で作詞しなおしてみる。
- L、歌詞をよりよく仕上げるために、第三者の目線、自分の目線での歌詞を混ぜたりして人に伝わりやすいように改善する。
- M、曲と連携出来るよう、調整していく。

上記は私の考えた作詞、作曲能力を高める訓練法だ。それぞれに考えがある。今から順番に説明していきたい。その前に私の考え方について聞いてほしい。

曲は大きく分けて3通りの作り方があると考えている。1つ目は歌詞の雰囲気に合わせて作る方法。2つ目は歌詞から想像した雰囲気に合わせて作る方法。そして3つ目は歌詞からとった一

一つの言葉のイメージを複合して作る方法だ。それぞれの作り方に特徴があるのだが、今回は1つ目の能力を高める訓練方法を紹介していく。ちなみに3つ目の作曲法が最も難しく、1つ目は習得はさほど難しくない。

本題に入ろう。Aは私生活で物事に対して感受性豊かにする練習だ。映画という非現実の日常から複数の気持ち、強い気持ちを感じて欲しい。そして言葉に出来れば更に都合がいい。歌詞に出来ればすごい才能だと言っても過言ではない。

次にCだが、これは曲の作りについてだ。歌詞とメロディが統一されている曲と、複数の感情が込められている曲があるということだ。どちらがいいということはないが、統一されている場合強い感情でないと共感は少なくなるはずだ。声、歌詞、あるいは曲のどちらかに強い感情を感じ取れなければならない。それが私の考える条件だ。

次にD、これは複数の感情を込める場合に使う手段だ。いきなり複数の感情を一つの歌詞から作るのは至難の技。そこで一つのタイトル、または想像から伝えたい感情を複数歌詞にする。こうすることで関連性は生まれるはずだ。そんな意味合いから考えた。

Eは淡々と歌詞に合わせた曲にしても弱いだけ、そう考えたためだ。強く伝えたいところを決めると曲らしくなるはずだ。

Fは歌い方から曲を作る人用に考えた手法だ。該当しなければ省略して構わない。

Gは後々必要となってくる能力だ。知っての通り、楽器によって伝わり方が異なる。だからこそ、ここでセンスを磨いて欲しい。そんな願いからだ。

Hから最後まで全て理解に苦しむところはないと思う。ここまで読んで頂いた方々、本当にありがとう。

作者 ヒタルルック